



発行所
和歌山県新宮市神倉
三丁目2番39号
和歌山県立
新宮高等学校
新聞局
電話 0735-22-8101
FAX 0735-21-2901

卒業生へ贈る言葉

生徒会長 (二四) 寺地 夢穂

三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。新宮高校での三年間、そしてこれから始まる新たな生活。その二つの間で先輩方は今、一体何を感じているのでしょうか。越えなければならぬ壁をまだまだ越えていない私たちには分からない事ばかりだと思えます。それでも、先輩方と過ごした時間は私たちに

いっの強さは伝染します。本当に叶えたい願いを持った時に最初に行動を起こす勇氣、そしてたとえどんなことがあっても絶対に屈しない意志を持つて挑戦し続ける強さ。その思いの強さは必ず周りに広がっていきます。しかし、そういった日々の努力は、勉強においても、何においても、時に順位や数字という結果となつて表れます。結果を残すことがすべてじゃない、その言葉が綺麗事になつてしまふ場面も多くあります。それに、きつと誰だつて人から否定されたり、批判されることは怖いし、

副会長 (二二) 佐々木 道暢

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから進学する人もいれば就職する人もいると思いますが、新しい環境に期待と不安を感じていると思います。

この三年間を振り返ると、様々な思い出があつたのではない

でしょうか。彩雲祭や体育祭などの学校行事。学習と部活動の両立は大変だつたと思います。それでも三年間頑張つていた先輩方の姿は目に焼きついています。笑顔で私達後輩たちと優しく接してくれる時もあれば、厳しく教えてくれる時もありました。そんな先輩たちの姿に、僕



たちは憧れの気持ちでいっぱいでした。先輩方が卒業されてしまふのは寂しいです。でも、先輩方から学んだ事を活かして、次は僕たちがこの伝統ある新宮高校を背負つて日々努力していきます。これから辛い事があると思いますが絶対に諦めず、最後まで突き進んでいってください。そして、様々なことに挑戦していただくさい。先輩方と共に過ごした思い出は決して忘れません。皆様のご健勝とこれからのご活躍を期待しています。

副会長 (二二) 平田 勇

新宮高校を卒業される三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

熊野古道を歩き、悠久の昔から多くの人々が歩いた歴史を感じ、新宮高校伝統の行事。今年、熊野古道の歴史を案内してくれる語り部さんとも

います。卒業してそれぞれの道へ進む先輩方は今、期待と不安の気持ちでいっぱいでしょう。彩雲祭や体育祭などの行事を一生懸命盛り上げてくださったたり、僕たち一、二年生を引っ張つてくれた皆様はとても優しく、時には厳しく接してくれて、とても良くなりました。先輩方に教えてもらった事を後輩たち

に伝えていきたいと思います。新宮高校で先輩方と出会えたことを心から誇りに思い、築かれてきた素晴らしい伝統をしっかり受け継いでいけるよう努力します。

卒業おめでとう。

長いようで短かつた三年間を振り返る時、一人ひとりの思いは決して同じではないだろうと思ひます。高校を卒業するということは、人それぞれに色々な意味を持つものですが、私は次のように思ひます。高校卒業とは長い人生の中にあつて、大切ではあるが、あくまでも一つの区切りの出来事に過ぎず、しかもそれは、「大事」を成し遂げるための希望に満ちた出発の第一歩に当たるものだと。みなさん一人一人がそのことをしっかりと認識し、卒業を迎えた今日、可能性に富む未来に思いを馳せ、新たな決意のもとに根気強く前へ進む「歩み」を始め

が必要なのか」とすら思ふる状況です。それでいて、本当に満足し切れる状態とは何なのか、何の不安も感じていないのかと、自問自答してみるとき、「何か大切なものが忘れられ、欠落して行きつつある」との思ひがふと脳裏をよぎります。近年における科学技術の進歩が、私たちにたらした贈り物には満足すると同時に、便利なツール(スマホ・PC・ツイッター・フェイスブック・ライン等々)が安価に手に入ることと反比例して、口角泡を飛ばすといった濃密な人間関係が希薄になつていく

が大切です。しかし、どのような社会状況になつても、私たち一人一人が「真摯に対応する姿勢や不断の努力を持続」できる限り、その種の不安は解消しうると私は思ひます。そこで、皆さんの卒業にあたり、普段私が考えていることを述べ、皆さんへの「はなむけの言葉」としたいと思ひます。第一点は「人生における目標をしっかりと定めて欲しい」

がことです。いくら立派な目標や意欲、更には知的好奇心を抱いても、実現に向けての努力と結びつかなくては、絵に描いた餅に等しい場合が多いことを私は経験則として知っています。豊かであることや利便性至上主義の風潮の中で、努力という

は賢明ではありません。結果を受容して、更にその上で新たな挑戦を試みる心のゆとり」が必要で、懸命に生きる過程を、絵に描いた餅に等しい場合が多いことを私は経験則として知っています。豊かであることや利便性至上主義の風潮の中で、努力という

たなければならぬ時代に入つたと言ひます。反省を忘れ、思ひ上がった人間社会は、必ず多くの課題や問題が突きつけられるということに心を留めておく必要があります。このような現代社会において、若者の担う役割や若者が持つ可能性は大きいはずで、最近では若い世代が創り出すサブカルチャーといわれる若者文化が新しい文化をリードしてきたと言ひられています。より良い地域づくり、国づくり、世界共通の課題解決のためには、次世代を担う若い君たちの

ロングハイキング

平成26年2月9日(日)

熊野古道を歩き、悠久の昔から多くの人々が歩いた歴史を感じ、新宮高校伝統の行事。今年、熊野古道の歴史を案内してくれる語り部さんとも



思い起こせば戦後六十八年の歳月を経て、近年のデフレによる失われた二十年があつたにせよ、日本が経済面では世界に冠たるGDP三位の地位を確立していることは周知のとおりです。昭和二十年代後半に生まれ、高度経済成長期の只中に青春時代を過ごした私からすると、商品が溢れ、物質的には「もうこれ以上何

人生航路へ漕ぎ出す卒業生の皆さん、混沌とした時代であるからこそ船出にあたり、急速に変化する社会状況の中で自分十分に応じ切れるのか真剣に考えておくことが大切で、ハイテク社会においては、時代の流れに鈍感だつたり、敏速な対応ができないと、知らぬ間に生きる場あるいは居場所を失ひはしないかという漠然とした不安抱き

第二点は、「努力を惜しまない心を持つて欲しい」とい

切さを伝えたいのはいつの時代においても、普遍的な真理として、意欲や努力なくしては、目標達成などあり得ないと思うからです。

ただ実際には目標を定め、意欲を燃やし、努力を続けても、望みどおりの結果が得られないことは頻りに起ります。それは人生の不条理な一面ですが、そのような時こそいたずらに不運を嘆き努力の必要性までも否定するの

著しく進歩発展した現代社会では、生活が豊かで便利になつたものの、その分欲望も際限なく膨れあがり、かえつて心は飢餓状態に陥りがちです。際限のない欲望は、ついには自然破壊(乱開発や汚染物質による大気汚染、放射能汚染、オゾン層破壊等々)や人間関係の荒廃まで招いてきたと言つても過言ではありません。今や隣国での汚染物質が日本に悪影響を与えたりというような事態も起こっています。私たちは日本の課題だけでなく、地球規模で課題を捉え、物事を考える視点を持

きました。熊野特有の自然の中を仲間とともに楽しみ、そして学ぶというロングハイキングの目的である「学びながら歩く」が達成できた一日となりました。

卒業生の皆さんの新たな旅立ちに幸多かれと祈念しつつ、惜別の言葉といたします。



「結果受け入れる心のゆとり」をもとう

学校長 七 瀧 高至

今のように豊かで、一見恵まれていように見える社会では、流れに任せて生きるのも一つの方法かも知れませんが、しかし、航空機や船舶にリーダー、コンパスが不可欠なように人生にも目標が必要で、特に人生を主体的に生きたいと願うならなおさらのことです。

著しく進歩発展した現代社会では、生活が豊かで便利になつたものの、その分欲望も際限なく膨れあがり、かえつて心は飢餓状態に陥りがちです。際限のない欲望は、ついには自然破壊(乱開発や汚染物質による大気汚染、放射能汚染、オゾン層破壊等々)や人間関係の荒廃まで招いてきたと言つても過言ではありません。今や隣国での汚染物質が日本に悪影響を与えたりというような事態も起こっています。私たちは日本の課題だけでなく、地球規模で課題を捉え、物事を考える視点を持

卒業生の皆さんの新たな旅立ちに幸多かれと祈念しつつ、惜別の言葉といたします。





十一脚や大縄跳び、綱引きといった団体競技、バトン走

体育祭

9月25日(土)

今年度で第六十六回を迎えた、競技が行われました。今年度は体育祭、秋晴れの中、まさにス、東京オリンピックの開催が決まり、日本中が二〇二〇年のスポーツの秋に相応しい白熱した

マにしたのか。それは東京オリンピック誘致委員の一人で、最終プレゼンもされた、パラリンピック女子走り幅跳び代表・佐藤真海選手がスピーチの中で被災された故郷でスポーツ活動を行った経験を通じて「私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。新たな夢と笑顔を育む力、希望をもたらずに、人々をつなぐ力。人々をつくる力。」という言葉が胸に響いたからでした。スポーツの持つ力で新宮高校だけではなく地域も含めて盛り上げていく、こう思う思いが込められています。当日行われた二十人二



は、熊本城の壮大さと歴史や阿蘇山火口の迫力を肌で感じる事ができました。クマモンには会ったが、きませんでした。熊本の魅力が十分に満喫できました。四日目は大分に移動し、湯布院を散策しました。温

泉地を食べ歩きしながら楽しんでいる姿や地獄巡りで初めての光景に目を奪われている姿が目に見えました。最終日はフェリーで大阪まで帰って来て、さすがに疲れているかと思いましたがU.S.J.に着いた瞬間、まるで初日のように元気にバスから飛び出して行



きました。この四泊五日の旅で、生徒たちは様々な場面で集団行動の重要性に気付く、多くの場所で貴重な体験をし、多くのことの考え、学びました。研修旅行という名に相応しい旅行となりました。

2学年研修旅行

2月5日(木)～2月9日(月)

今年度は北九州の各地を巡る四泊五日の日程でした。全日程が天気に恵まれ、多くの観光名所を巡り、五日間とも驚きと笑顔が溢れる旅行となりました。生徒たち全員が旅行をおおいた満喫し、旅行終盤からは帰りたいくないという声で溢れていました。初日は早朝に新宮高校をバスで出発し、新大阪駅から新幹線

で九州を目指しました。新幹線に始めて乗る生徒も多く新幹線の速度に驚いていました。二日目は宮間の神様として知られる太宰府天満宮を見学。早生徒たち全員が祈願をしている生徒が多くいました。長崎では平和公園に行き、戦争の悲惨さを知りました。その後はクラスで計画してきた自由行動となり中華街で長崎ちゃんぽんに舌鼓を打ったり、クラバークや出島で昔の長崎に触れたり、各クラスが工夫をこらした体験や学びを行っていました。三日目の熊本では、熊本城の壮大さと歴史や阿蘇山火口の迫力を肌で感じる事ができました。クマモンには会ったが、きませんでした。熊本の魅力が十分に満喫できました。四日目は大分に移動し、湯布院を散策しました。温

笑顔と感謝の心を忘れずに◎健康に気をつけて一瞬一瞬を楽しんで！おに会える日を楽しみにしています。森山文英

あきらめたら試合終了 武田俊章

人生は長い、寄り道して楽しむ。 浜 竜也

良いことも悪いこともどんなことでもすべては未来への糧になる 藪 中

人間万事塞翁が馬 瀬田博文

卒業おめでとうございます。Congratulations on your graduation. あなたの未来が望み通りのものになりますように。May your future be as rewarding as you hope it to be. ヤニス

軽んじても立ち上がれ！前に進め！ 岡田 美

何事も成功おまでは不可能に思えるものである 糸山 マンダラ

生使命 米谷 英志

可能性は無限大の 岩倉 真希

心臓(生はおれろいお前たちと食べたお前と同じや！周りに死んでる人！) 何事も一番ねて、こい！

等身大の自分にてきて愛せるから Mr.Children(花-Memento-Mori-) これからもあなたらしく生きて下さい。 玉石真己

おめでとう 高木 常子

初速、スピード、加速のスピード、思考のスピード。人生は決断の連続です。失敗を恐れず「思いつき」青春を謳歌してください。中口陽介

寄せる文字も滲む春の雨 善光

「暗い」と不平を言うよりも、あなたが選んで明かりをつくりださ。(マザーテレサの言葉) 小坂はる那

健康第一 榎本 滋

人生の節目は通過点、ゴールはまだまだ先です。まだ行かないでください。 塩崎 洋一

『一番大事なのは、まず、やってみる勇氣』 坂井 英行

生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。 塩崎 洋一

文武不岐 伴野賢一郎

やーさとは強さー 橋 恭子

自分信じ 最後まで諦めない 岡野 孝

努力の上に花が咲く 雨 郡

人事を尽くして天命を待つ 宮井 貴彦

夢を掴む秘訣 夢が叶うまで続けること 高須 崇

挑め 自分の可能性を信じて、 雑賀 亨

一歩、やるか、やらないか、の決断。人生が変わる。 上地 一生

我達人

下脚看 七瀨 高至

きゅっかを看よ：何かに頼って生きているとそれが失われた時に一歩も進むことができなくなります。前を行く人の背中を追いかけっていくとふと見失って迷子になる自分。上へ上へと昇っていく時も上だけ見ていたのでは足下の岩を踏み外してしまいます。一歩一歩、自分の足で丁寧に歩き出せばいいのです。

く学ぶ 遊ぶ game

明日は我が身 丹羽 泰一郎

Only "You" can control your future. 自分らしく自分の道を。 — Dr. Seuss 田端 綾子

正しい言葉が使えろ人になて下さい 東 啓史

生きていくのに必要なのはビタミン・ミネラル・食物繊維 あとアキラメナイキモチ。 島 照子

悩んだり、迷ったり。それも人生。 垣内 穂彦

一心一意 大谷 貴彦

卒業おめでとうございます。自分の選んだ道をしっかりと歩んで下さい。 岡野 孝子

初心忘れらるべからず 大須賀 淳志

人に出来て、小教 君だけの出来た事は、

謙虚に 倉谷 宣宏

動けば何かが変わる！ 動きながら考えろ。 棚代 涼佑

素直・感謝・笑顔 を忘れろい ストラキナ 大人になて下さい。 岩崎 恵美

Seize the day! (from "Dead Poets Society") Naoyo Nishihagi いつかきっと…！ 切石 おつみ

卒業に寄せて

卒業生を代表して、各クラスの代表6名に高校生活を振り返ってもらいました。

卒業を思う



3-1
安間 美幸

高校に入学してからの三年間はまさに光陰矢の如しだったと感じています。入学当初は、新しい環境に不安と戸惑いを抱いていましたが、それらはすぐに払拭されました。一生に一度しかない高校三年間がこれほど充実感に満ちていて、人生におけるかけがえのない財産だと思えるものにできたことを嬉しく思います。

特に一番思い出深いのが、写真部での活動です。入部当時は少人数かつ不活発なクラブでした。先輩が卒業して、廃部の危機に直面したとき、私はこのクラブに革命を起こそうと決意しました。時には部員と意見が合わず衝突したこともありましたが、それでもみんなで一致団結した結果、今では見違える程に活発なクラブになり、学校の中に写真部の地位を確立できたのではないかと思います。頼りない私に付いてきてくれた部員たちに感謝しています。

高校卒業後、社会人として新たな一歩を踏み出します。不安は多くありますが、新宮高校で学んだことを胸に、自分で選んだこの道を一步一步しっかりと歩んでいきたいと思っています。地域社会に安全と安心を提供する鉄道会社の一員を目指して、日々成長していきます。

卒業に臨んで、お世話になった先生方や友人、そしていつも陰ながら支えてくれていた家族に心より感謝申し上げます。三年間、ありがとうございました。

三年間の思い出



3-2
向井 良

高校生活最後の行事である卒業式を目前に控えた今、これまでの三年間を振り返っています。一番思い出に残っていることは、三年間続けたクラブ活動です。私はバドミントン部に入っていました。毎日もっとと強くなりたいと思い、一生懸命練習に励んでいました。そして先生や先輩の方々に教えてもらったことなどをもいつも意識して練習した結果、三年の夏の大会でダブルス二位になることができ、インターハイに出場することができました。このような結果を出せたのは、先生はもちろん先輩と一緒に練習してきたみんななど、たくさんの人たちのおかげだと思っています。

そして、私は進学を希望していたのですが、クラブ活動での実績や実力を評価され、スポーツ推薦で大学に進学することができました。この時の試験には、面接や小論文などもあったので、面接練習や小論文の書き方などを指導して頂いた先生方にも、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、この三年間色々な人たちにお世話になりました。その全ての人たちに本当に感謝しています。この新宮高校で過ごした三年間のおかげで心身ともに成長できたと思います。

大学に進学するにあたり、これから数多くの困難に直面すると思いますが、その時は高校で学んだことを役立てて、乗り越えていきたいと思っています。三年間本当にありがとうございました。

三年間の軌跡



3-3
福林 透真

高校生活三年間を締めくくる卒業式を間近に控え、改めて高校生活を振り返ってみると、長いようで短い三年間でした。しかしこの三年間は、私にとってかけがえのない時間でした。春に新宮高校に入学した頃の私は、高校生としての自覚がありませんでした。そんな私を変えてくれたのはクラブ活動でした。私はバドミントン部に所属していました。その中で一年生の新人戦が私のバドミントンに対する気持ちを変えてくれました。私は二部での出場、結果は二回戦敗退でした。悔しくて仕方ありませんでした。このことをきっかけに、クラブの取り組み方が変わり、不思議と勉強への意識も変わりました。

二年の夏から卒業後の進路として公務員を目指しました。このときも私を後押ししてくれたのはクラブでした。引退までどんなに厳しい練習も一生懸命頑張ってきたのだから勉強だって頑張れると言いつつも、今までクラブに向けていた力を勉強に向けることができ、すべての一次試験に合格することができました。そして第一志望だった新宮市役所にも合格し、夢を実現することができました。

この三年間を振り返ってみると、クラブの存在は大きかったと思います。そして何より私を支えてくれた友達、先生方、そして家族に感謝しています。高校生活に慣れたばかりの一年生や、進路とクラブに忙しい二年生。各々不安なこともたくさん

あると思いますが、高校生活を楽しむ気持ちだけは常に持っていてください。楽しむときは楽しみ、やらなければいけないことから逃げずに向き合うことが、夢を実現させる一番の近道だと、私は思います。

私の高校生活



3-4
濱地 真子

卒業を目前に控えた今、新宮高校で過ごした三年間を振り返ると本当に毎日が充実したものでした。入学してからもう三年という月日が経ちました。あつという間に三年が経ってしまったが、この三年間で数えきれない程多くのことを学びました。

袴姿に憧れて入部した弓道部。文武両道を目標に弓道部の沢山の仲間と日々練習に打ち込みました。弓道を通して集中力や精神力を養うことができました。それだけではなく仲間の大切さであったり、頂点を目指して仲間たちと共に努力することの素晴らしさを感じることができました。

私が三年間の中で一番に残るものは生徒会活動です。私は二年の後期に生徒会副会長、三年では前期後期共に生徒会役員をさせてもらいました。生徒会に関わり数多くのボランティア活動に取り組みました。ボランティア活動に取り組むことで「ありがとう」の言葉の温かさを改めて感じ、感謝の気持ちを言葉で表すことの大切さを学びました。生徒会の一員としていろいろな活動をしました。とても貴重な経験をさせてもらいました。本当に生徒会に入って良かったと思います。

楽しい学校生活を共に過ごした友人、いつも陰で支え応援してくれていた家族、そして毎日熱心にご指導下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

感謝



3-5
浅利 知波瑠

今、卒業を目前にしてみると、新宮高校で過ごした三年間をとても短く感じます。それほどこの三年間は様々なことがあり、とても充実していました。多くの学校行事や日々の授業、そしてクラブ活動。その全てが私を成長させてくれました。

学校生活では友達やクラスメイトにめぐまれ、毎日が本当に充実していました。クラスマッチや彩雲祭、体育祭などの行事ではクラス全員で団結して何かすること仲が深まり、クラスとしてよりまとまることができました。と思います。また、悩みがあれば相談をし、お互いに励ましあえる友達がいました。

クラブ活動でも多くの人に支えてもらいました。部活に入っただけで何も知らなかった私に丁寧に教えて下さった先生や先輩。そして同じ目標を持って頑張った同級生や後輩。試合に勝つて嬉しいときもあれば、負けて悔しい思いをすることもありました。ミーティングをして自分たちで言い合い、どうしたら勝てるのかを毎日考え、悩みながら練習しました。最後の大会では悔しい思いをしましたが自分がここまでやってこれたのは周りの人たちの支えがあったからだと思います。新宮高校での三年間は自分自身の変化や成長を感じることができた三年間でした。そして、私を支えてくれた人々がたくさんいると、いうことも感じさせられました。進路の相談にのってくださった先生方、部活で熱く指導してく

ださった先生方や先輩のみなさん、部活の仲間やクラスメイトそして家族。多くの支えがあったおかげで私はここまで頑張ることができたのだと思います。本当に三年間ありがとうございました。

みなさまへ



3-6
中村 史

あれから三年。私たちが新宮高校に入学した当日はとてもよい天気でした。希望に満ちた心持ちで校門をくぐりました。そして今、卒業を迎えるにあたってこの三年間、本当に多くの方々の支えがあったことに思いを巡らしています。ごみを捨てに行くときにいつも笑顔で手伝ってくださいました校務員さん。ありがとうございました。学食で食べたラーメン美味しかったです。調理員さんありがとうございました。暑い日の炭酸飲料。生き返りました。購買の方ありがとうございました。研修旅行の付き添いの時、工場見学でたくさんお話をしてくださった教頭先生。ありがとうございました。熱心に指導していただいた先生方、夢に向かって一歩を踏み出します。ありがとうございました。

勉強のモチベーションを高めてくれた友達。またいつかどこかで笑顔で会いましょう。ありがとうございました。そして、校長先生。これから新宮高校卒業生として誇りを持って成長していきます。時々ありがとうございます。時々さつと懐かしく皆様の思い出することもあつたでしょう。私たちは皆様の支えを胸に今回はさらに大きな希望を持って校門を後にします。いつかお目にかかれる日を楽しみにしています。それでは、みなさまお元気で。

今年度、日程を秋に変更して行われた彩雲祭。天気にも恵まれ秋晴れのもと二日間テーマでもある多くの「あい」に包まれた彩雲祭となりました。

第20回 彩雲祭

テーマ ～あい～ 9月6日(金)、7日(土)

二十回という節目である彩雲祭では毎年、大盛況の手芸部のペーパードレスや吹奏楽の笑顔あふれる演出と演奏、他にも大迫力の書道パフォーマンスなど伝統に恥じない多くの舞台発表が行われました。クラス発表では数多くの演劇が行われ台本からすべて生徒が作ったとは思えない作品ばかりでした。

教室での製作や展示も創意工夫あふれるものばかりで来場者の笑顔を見たりとこころで見て地とが出来ました。あらためて地域の人も一緒になって彩雲祭を作ってくれているんだと感じることができました。



食物バザーでは全てのテントから食欲をそそる匂いがあふれ、長蛇の列がなくなることがありませんでした。三年生は必死に声を出し、料理を作り奮闘していました。

文化の秋であるこの時期に新宮高校の彩雲祭が開催され、今までの開催時期とは違った良さがたくさんありました。

来年度も秋に実施される彩雲祭。今後ますます素晴らしいものになっていくことを予感できる二日間となりました。

